

## 職員のみなさんへ一言メッセージ（第79回）

暑い夏です。決算理事会、居宅生活訓練事業の立上げ、県の監査、ふれあい交流会と忙しい年度前半でした。本当にご苦労様でした。お盆も終わりなんとなく朝晩は、少し涼やかになって来たようです。職員のみなさんも疲れがちな体を労り、来るべき実りの秋に備えてください。

さて、居宅生活訓練事業が7月1日から、始まりました。職員のみなさんにも、お二人のアパートへの送り迎えなど新たな業務も加わりご苦労をかけています。お蔭様で、現在のところスムーズな展開を見せており、ホット胸を撫で下ろしているところです。

ところで、真和館の〈基本理念〉の1には、「入所者に安心した生活をしていただくために、真心と和の精神で質の高いサービスを供給続けます。そのために職員の人間性の向上や能力開発に取り組むと共に、時代の要請に応じた事業を展開して行きます。」と謳ってあります。真和館は、創立以来7年間、「質の高いサービス」と「職員の人間性の向上や能力開発」にジックリと取り組んで来ました。そして、やっと8年目にして、時代が要請する居宅生活訓練事業へ踏み出したわけであります。勿論、質の「高いサービス」も「職員の能力」もまだまだ、これからではあります。しかし、この2つの課題は永遠の課題であり、終着点がありませんので見切り発車をしたわけであります。

この居宅生活訓練事業は、小さい、小さい事業であります。しかし、真和館が外に打って出た最初の事業であります。「小さく始めて大きく育てる」という言葉もあります。この事業をどんな大きな事業に展開して行けるかが、今後の真和館の発展に直結することになります。そういった観点に立つと今まさに、真和館の第2の創業期が始まろうとしています。

また、そういう決意のもと、人材と財務のバランスを取ながら、この事業の延長線上にある新たな事業に取り組んで行こうと思っています。

みなさんも、この意味を確り認識するために、「第2次中期経営計画」「真和館人材育成ビジョン～第2次中期研修計画～」を読んでください。

私が職員のみなさんに今、望んでいることがなんであるか、分かると思います。一言でいえば、「組織に貢献」する職員になって頂くことであります。

それでは、組織に貢献するためにはどうすれば良いのか。勿論、毎日の基礎的な業務を真摯にやり遂げることが、最も大事なことであり、職員として当然のことでもあります。それと合わせて、これから始まる取り組みが、どんな方向に向かっているのかを確り見定め、自分の得意とする分野でどう貢献するか。

今一度、自分の持てる能力を確り見詰め、どの分野の能力をどう磨いて行くのか、確り、振り返ってみてください。

平成25年8月23日 真和館施設長 藤本和彦